



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和4年10月21日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなで作る尾倉中学校～

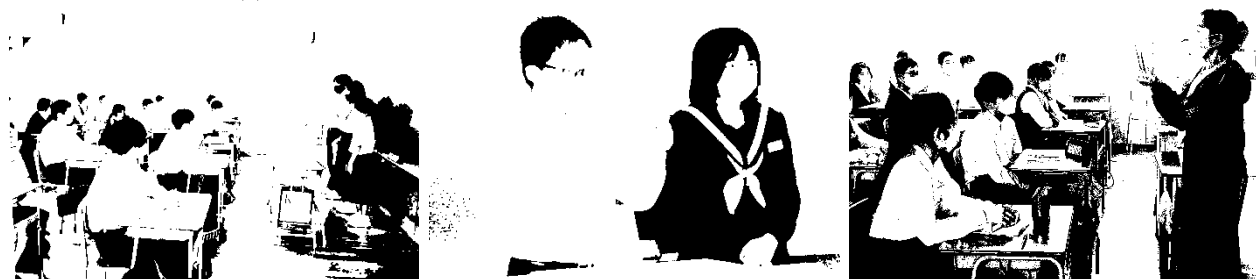
<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
- ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
- ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

北九州子ども読書の日の取組について

10月18日(火)1校時に「北九州子ども読書の日」の取組を行いました。まず、初めに図書室の松尾先生から放送で読書についてお話をいただきました。その後、各学級の文化図書委員が本を紹介するポスターを作成し、全学級を回りました。どのポスターも素晴らしい出来栄で、学級の友達は一瞬懸命聞いていました。国語科の奥村先生、長野先生も本を紹介してくれました。

北九州市では、今年度から子どもの読書活動の機運を高めるため、独自の「北九州市子ども読書の日」を新設しています。秋の読書週間(10月27日～11月9日)直前の10月第4日曜が「北九州市子ども読書の日」となっており、令和4年度は10月23日です。



【北九州市子ども読書プラン】

市内のすべての子どもが、あらゆる場所であらゆる機会に、楽しく自主的に読書に親しむことができるようになるためのプラン(令和3年度から令和5年間の計画で今回は第4次計画)です。

●何のために読書をするの?(読書の意義)

読書は、「言葉の力をつける」「自分ができないことを疑似体験できる」「知らないことを知る」「他人の考えに触れる」「自分を高める」など、様々な発見や感動をもたらす楽しいものです。自分

で考え、判断し、主体的に生きていくために、読書を通じ、生涯にわたって自発的に学ぼうとする習慣を身に付けていくことは重要です。また、読解力、表現力、思考力、想像力、問題解決力など多くの「生きる力」を身に付けることに役に立つ大切なものです。

●こんな子どもの姿を目指します!

すべての子どもが、日々の生活の中ですすんで本を手にとって読み、子ども同士や家族などと楽しく語り合う日常を実現するために、「読書に親しむ子どもを増やします」「読書の大切さを知る子どもを増やします」「読書好きな大人、子どもの読書を支える大人を増やします」。

●具体的には、どんなことに取り組んでいくの?

<家庭では>

- ➡母子健康手帳の交付時に絵本を贈り、その絵本の読み聞かせ会等の実施
- ➡家読(ファミリー読書)の推進 ➡秋の「北九州市子ども読書の日」の取組

<学校では>

- ➡日ごろから「身近に本 気軽に読書」
- ➡学校図書館職員が中心となって、学校図書館を楽しく環境づくり
- ➡市立図書館の見学を積極的に実施(見学時に図書館利用者カードを申請)

<市立図書館では>

- ➡来館のきっかけづくり(魅力的なイベントの実施など)
- ➡障害のある子どもや外国籍の子どもなど、すべての子どもが利用しやすい環境の整備
- ➡子ども向け電子図書館の導入(市立小・中・特別支援学校の全児童生徒にID番号を配付)

<地域では>

- ➡子育て関連施設、市民センター等での読み聞かせの実施
- ➡商業施設・レジャー施設などとの連携・協力

<読書の普及・啓発として>

- ➡SNSを使った情報発信 ➡読書好きな子どもが輝く、交流・発信する場の提供

テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されています。子どもは、読書を通じて、読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、文学作品に加え、自然科学・社会科学関係の書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、更なる探究心や真理を求める態度が培われます。

学校や家庭でこのような読書で培われる力を育むためには、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、読書の幅を広げ、読書体験を深めるような機会を提供するとともに、その環境作りに努めることが必要であると考えます。(文科省)